



滝波のお面さん祭り



お開帳されたお面さん

2月11日、滝波地区の伝統行事「滝波のお面さん祭り」(勝山市指定文化財)が滝波町ふれあい会館で行われました。

戦国時代、小原(北谷町)の村人が平泉寺への焼き討ちの際に7つの面を戦利品として持ち帰ったが、祟りを恐れて川に流し、4つは谷地区、3つは滝波地区で拾われたとされています。

午前10時、3つのお面さんがお開帳されると、訪れた多くの区民はお面さんの表情を見ながら手を合わせ、3合3勺の洗い米を粉にし薄切りの大根の上にのせた「おしとぎ」を袴姿の奉仕から受けていただいていた。

笠川剛士区長は、「お面さんは、今年も優しく微笑み穏やかな表情をしており、いい年になりそうです。」と喜びながら話していました。

祭りでは、新しく世帯主になられたかたや区内に転入されたかたを祝福する「名替えの盃」も行われました。

観音さまのおすすめ

2月14日、遅羽町北山地区に400年以上前から伝わる「観音さまのおすすめ」(勝山市指定文化財)が、斎藤武さん宅で行われました。この行事は、女性の日ごろの労をねぎらうために「お粥」を振る舞いつつ、1年の五穀豊穡を願うものです。

地区の子どもたちが各家庭から夕方に集めた玄米を、4人の男性がお囃子を歌いながら杵と臼でつき、その米を大釜でじっくりとお粥に煮込んで、振る舞いです。

給仕をする男性たちが「観音さんのおーおすすめー、めー」と声を発しながら手に持った茶碗のお粥を、女性たちの茶碗へ山盛りになるまで継ぎ足していきます。「もう食べられない。」「勘弁して!」など女性たちの悲鳴と笑い声が飛び交う中、こぼれても次々とお粥は茶碗に盛られていきました。

「観音さまのおすすめ」では、たとえどんなに満腹になろうとも、次の日の朝までにはお腹も落ち着きお腹をこわすことはないといわれ、喜びを感じながら皆さんは食されていました。



次々と茶碗にお粥が盛られていく

谷のお面さん祭り



お面さんにお参りする地区のかたがた

2月15日、勝山市指定文化財である谷地区の伝統行事「谷のお面さん祭り」が営まれました。会場となった谷集会場では、地区のかたがたが屏風に掛けられ1年ぶりに姿を現した4つのお面さんの前で、豊作などを願っていました。

出水一三区長は、「今年のお面さんは、にこやかに笑っているように見えます。きつといい年になるでしょう。」「とつれづれに話してくれました。

また、お面さん祭りにあわせて、谷はやし込み保存会や青年会議所などの皆さんが、愛らしいお面と手作りのごさ帽子などで着飾った雪像約200体を作り、祭りを賑やかにしていました。

夕方、各雪像のろうそくに火が点されると、辺りは幻想的な光景となり、訪れたかたがたの目を和ませました。



ろうそくに火が点けられた雪像

クロスカントリースキースキーを楽しく!!


勝山高等学校スキー部

中部日本スキー大会少年女子5キロフリー3位、同クラシカル優勝。全国高校スキー大会女子10キロフリー5位入賞、国体冬季大会少年女子5キロクラシカル14位、同距離リレー出場。



石井翔子さん

中部日本スキー大会少年男子10キロフリー優賞、同クラシカル優勝。全国高校スキー大会男子フリー10位。国体冬季大会少年男子10キロクラシカル出場、同距離リレー出場。



宇田崇二さん

中部日本スキー大会少年女子5キロフリー10位。全国高校スキー大会出場。国体冬季大会出場。



天野佑香さん

中部日本スキー大会少年女子5キロフリー15位。全国高校スキー大会出場。国体冬季大会出場。



天野加菜さん

今冬、勝山高等学校スキー部の皆さんは、県内はもとより国内の大会にも数多く出場し、輝かしい成績を収めました。

部員は、石井翔子さん(3年)、宇田崇二さん(2年)、天野佑香さん(2年)、天野加菜さん(1年)の4人。この種目を始めたきっかけは、全員、家族の影響が大きかったようですが、小学生のときから参加してきた勝山スキー連盟主催の「年末野沢温泉合宿」での楽しい思い出が、競技を続けてきた大きな理由だそうです。

卒業を迎えた年長の石井さんは、「常につらいです。」と、練習や大会本番のことを話していますが、「9月以降、クロスカントリー一本に絞る自分で練習してきました。自分より上の選手を目標にしてみました。」と、言うように、堂々たる成績を収めています。

練習は、夏季には登山やローラースキー、冬季は11月下旬からの合宿での

十分な走り込みと、白峰クロスカントリー競技場や雁が原スキー場でのスピード練習が中心となるそうです。

宇田さんは、厳しい練習の中でも、「大会に出場する他の選手たちと話ができるので楽しいです。」と話していました。

天野佑香さんと加菜さんは1歳違いの姉妹で、「石井さんは尊敬する人です。」と2人が口を揃えて言うように、先輩の石井さんに少しでも追いつこうとがんばっています。

同部の宇田康二監督は、「全国高校スキー大会での石井の5位、宇田の10位入賞は、福井県でもやればできることを証明しました。しっかり目標を持って続けることが大事です。」と、教

え子の成長に目を細めていました。

今後、石井さんと宇田さんは、3月16日から北海道で開催される「全日本スキー選手権大会」に福井県を代表して出場することになっています。この大会は、高校生、大学生、一般のトップクラスの選手がそれぞれの部門で競い合うため、2人とも「いい勉強になります。」と話していました。

今、皆さんが望んでいることは、「学業とスキーの両立は大変ですが、その苦労から得るものは大きいので、スキーを愛する部員を増やしていきたいです。」とのこと。

今後、皆さんの活躍を期待したいものです。

※成績は今シーズンのものです (H21.3.6現在)